

# 注意の特性差が社会的促進/抑制に与える影響

## The Effect of Individual Attentional Trait on Social Facilitation/Inhibition

大井 京, 酒井 亮太郎  
Misato Oi, Ryotaro Sakai

近畿大学  
Kindai University  
oimisato@gmail.com

### 概要

本研究は、他者存在によって生じる課題遂行量の促進と抑制、つまり社会的促進と抑制に、注意特性の個人差が影響するか否かを検討した。注意の制御を求めるストループ課題を、実験参加者が観察しない統制条件と、観察を実施する観察条件で実施した。また、注意特性を測定するため、日常的注意経験質問紙を用いた。ストループ課題の成績と日常的注意経験質問紙得点間での積率相関係数を算出したが、有意な相関係数は確認されなかった。

キーワード：社会的促進・抑制 (Social Facilitation/Inhibition), 注意特性 (Attentional Trait)

### 1. はじめに

すでに100年以上前に、Triplet (1898) が、他者の存在により運動パフォーマンスが促進する事を報告しているように、他者存在によって生じる課題遂行量の促進と抑制は広く知られ、現在に至るまで数多くの研究が実施されてきた (e.g., Guerin, 2010; Ruddock et al., 2019). その機序に関する理論として、Zajonc (1965) による動機付けの理論に基づく動因説 (drive theory) や、Baron (e.g., Baron, 1986) による注意の要因に注目した注意葛藤説 (distraction-conflict theory) が挙げられる。

注意葛藤説を支持する研究は数多くあり (e.g., Huguet, 1999; Muller et al., 2004), また、古くは Travis (1925) が指摘しているように、個人差が社会的促進・抑制のメカニズムに影響していると考えられる。そこで、本研究では、社会的促進・抑制のメカニズムの根底をなす注意機能の個人差に注目した。具体的には、本研究では、日常的注意経験質問紙 (篠原他, 2007) で測定される4種類の注意機能 (注意集中能力, 認知制御能力, ながら作業志向性, 注意転導傾向) の高低が、他者の観察が有り・無し各条件下で、注意の制御を求めるストループ課題の成績に影響しているか否かを検討する。

### 2. 方法

#### 2.1 実験課題

日本語版のストループ課題 (嶋田, 1994) を、120 試行を1ブロックとし、2ブロックを統制条件、残る2ブロックを観察条件で実施した。120 試行のうち100 試行が「色」と「読み」が一致しない不一致条件であり、残り20 試行は「色」と「読み」が一致する一致条件であった。統制条件では、実験室に実験参加者のみが在室して課題を実施し、観察条件では、実験参加者の他に実験者である観察者1名が実験室に在室し、実験参加者の課題遂行を観察した。

注意特性は、ストループ課題実施後に日常的注意経験質問紙 (篠原他, 2007) を用いて測定した。

#### 2.2 実験参加者

大学生22名が実験に参加した (男性19名 女性3名 平均年齢20.7歳)。実験参加者には、謝礼金 (1000円) が支払われた。

#### 2.3 手続き

実験参加者は、ストループ課題において、まず練習試行を遂行し、その後、本課題を遂行した。その際、統制と観察条件の実施順序は実験参加者で相殺した。

### 3. 結果と考察

統制・観察条件それぞれにおける一致・不一致条件の平均反応時間を図1に示す。2要因 (観察の有無, 一致

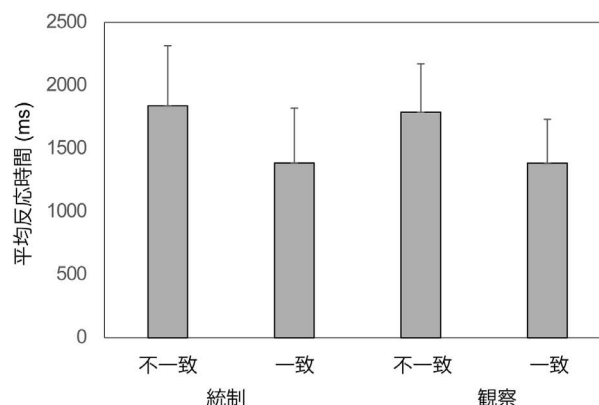


図1 統制・観察条件それぞれにおける一致・不一致条件の平均反応時間

性) 参加者内分散分析を実施したところ、一致性の主効果のみが有意であった(観察の有無:  $F(1, 21) = 0.40, n.s.$ ; 一致性:  $F(1, 21) = 75.44, p < .01$ ; 交互作用:  $F(1, 21) = 2.06, n.s.$ )。この結果は、不一致条件において一致条件よりも反応時間が遅延するストループ効果が確認されたことを示すが、観察による社会的促進・抑制効果は確認されなかったことも示す。

次に、注意の特性差と社会的促進・抑制の関係性を検証するために、まず、反応時間が、観察条件において統制条件よりも小さい値を示した場合を社会的促進、大きい値を示した場合を社会的抑制と定義した。各被験者の一致条件と、不一致条件の平均反応時間のそれぞれに対して、統制と観察条件間の差分を求めた。また、不一致と一致条件間の差分も求め、これをストループ効果量と定義し、ストループ効果量においても統制と観察条件間の差分を求めた。これらの値と、4種類の注意特性得点と、全注意特性の平均得点間のPearsonの積率相関係数を求めた結果を表1に示す。これらの相関係数に対して無相関検定を実施したが、有意な値は確認されなかった。

本研究の結果は、日常的注意経験質問紙で測定された注意特性とストループ課題で測定された社会的促進・抑制量との間には関連性が見られないことを示す。このことに対する最も極端な説明は、個人の注意特性と社会的促進・抑制効果は関連しないというものであるが、それよりも、以下の複数の可能性が指摘される。まず、質問紙で測定される主観的な注意特性と社会的促進・抑制効果には関連が示されないが、注意特性を測定する課題成績などを利用した客観的な指標を利用した場合は関連が示される可能性である。第二に、本研究では、観察条件において実験者が最初に声をかけた後

は背後から観察するのみであり、実験参加者への関与が小さく、社会的促進・抑制を生起させる程度が小さかった可能性である。また、この他にも、観察者と実験参加者が初対面であり関係性が弱かった可能性などが挙げられる。これらの可能性の検証については、今後の検討課題である。

## 文献

- Baron, R. S. (1986). Distraction-conflict theory: Progress and problems. *Advances in Experimental Social Psychology*, 19, 1–40.
- Guerin, B. (2010). Social facilitation. In Weiner, I. B., & Craighead, W. E. (Eds.). *The Corsini encyclopedia of psychology (4th ed.)*. John Wiley.  
<https://doi.org/10.1002/9780470479216.corpsy0890>
- Huguet, P., Galvaing, M. P., Monteil, J. M., & Dumas, F. (1999). Social presence effects in the Stroop task: Further evidence for an attentional view of social facilitation. *Journal of Personality and Social Psychology*, 77(5), 1011–1025.  
<https://doi.org/10.1037/0022-3514.77.5.1011>
- Ruddock, H. K., Brunstrom, J. M., Vartanian, L. R., & Higgs, S. (2019). A systematic review and meta-analysis of the social facilitation of eating. *The American Journal of Clinical Nutrition*. 110(4), 842–861. <https://doi.org/10.1093/ajcn/nqz155>.
- 嶋田 博行 (1994). ストループ効果—認知心理学からのアプローチ 培風館
- 篠原 一光・山田 尚子・神田 幸治・臼井 伸之介 (2007). 日常生活における注意経験と主観的メンタルワークロードの個人差 人間工学, 43(4), 201–211.  
<https://doi.org/10.5100/jje.43.201>
- Travis, L.E. (1925). The effect of small audience upon eye-hand coordination. *Journal of abnormal and Social Psychology*, 20, 142–146. <https://doi.org/10.1037/h0071311>
- Triplet, N. (1898). The dynamogenic factors in pacemaking and competition. *American Journal of Psychology*, 9(4), 507–533.
- Zajonc, R. B. (1965). Social facilitation. *Science*, 149(Whole No. 3681), 269–274. <https://doi.org/10.1126/science.149.3681.269>

表1 注意特性得点と社会的促進・抑制値間の Pearson の積率相関係数

	社会的促進・抑制		ストループ 効果量
	不一致条件	一致条件	
注意集中	0.07	0.13	-0.13
認知制御	0.04	0.10	-0.10
ながら	-0.26	-0.06	-0.19
注意転導	0.00	-0.10	0.16
注意平均	-0.04	0.05	-0.12